
お酒の力

ぎょにく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お酒の力

【コード】

N8121Y

【作者名】

ぎょくく

【あらすじ】

初投稿。あまりひねりのないSSなので気軽に読んでください。
pixivでも投稿したものです。

飲み会が始まって1時間は過ぎただろうか。新入社員の研修が終わり、同期総勢20人と大衆居酒屋で飲んでた。コースの料理は締め雑炊とデザート以外は出つくしている。同期の数人は飲み放題をフルに活用してべるべろになって騒いでいる。そんな頃合いに事件は起きた。テーブルをはさんで私の対面にいる、コールに呼ばれて多量の酒を飲んでたAが隣りにいる女子の同期にからみだしたのだ。ボディタッチや下ネタ連発で、誰が見てもそれは非常にたちの悪いものだった。

このAという男、普段は生真面目で同期からも頼りにされている人物だ。黒い短髪で四角い顔をした、いかにもアメフトやラグビーをしていたような見ためをしている。そんな彼がまさかこんなにも人柄が変わるとは、平常時の彼を知る人なら予想だにできなかっただろう。私は呆れながら隣りにいるBさんに話しかけた。

「すごい酔ってるね、Aのやつ」

「ね。ちよつと驚いちゃった。お酒の力って怖いね」

Bさんは酒が入ったからか、頬をやや紅潮させながら答えた。そういえばBさんはこの1時間でなかなかの量を飲んでいるようだ。この人はいつも穏やかで落ち着いており、しっかりと周りを見てくれていて優しい印象を与えてくれる。長い黒髪で華奢な胴体、端正な顔立ちで周りから22歳にして「委員長」と呼ばれていた。その後私とBさんはお酒にまつわる話を続けていたが、Aの蛮行に会場全体が見るに見かねた空気が漂い始めていた。それと同時期に私とBさんが頼んでいたグラス2つの焼酎水割りが届いた。

「そろそろ本格的にひどいな、あれ。止めた方が良いかな？」

「んー。確かに見てられないね。ここは私に任せてみて。お酒の力を見せてあげるね」

笑ってそう言うと、彼女はゆっくりと立ちあがった。それから間髪いれずに数粒の水滴がテーブルを濡らしたのが見えた。なにが起きたのか、その場の誰もが理解していない。少なくとも当事者のBさんを除いて、だ。

「いい加減にしない」

落ち着いて声を荒げることもなく、怒るというよりはたしなめるような語調であった。彼女の手には届いたばかりのグラスが空になって握られている。A君は鳩が豆鉄砲を食らったような顔をしている。顔をびしょびしょにしながら。

「ね？お酒ってこんな使い方もできるのよ」

えへへ、とはにかみながら座る彼女を見て、
お酒の力は怖い、そう強く感じたひと時だった。

(後書き)

読んでいただきありがとうございます。感想など、忌憚ないご意見
いただけたら幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8121y/>

お酒の力

2011年11月24日00時49分発行